

III. 刊行報告書抄録

第144集 下懸遺跡

安城市小川町に所在する遺跡で、調査面積は3700㎡となる。

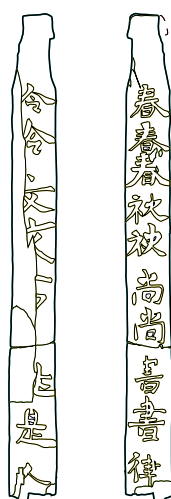
中心となる時期は弥生時代後期～古墳時代前期で、南側に谷地形、北側に居住域が展開する様子を確認している。居住域と谷地形の境界部分には方形周溝墓が確認され、その周囲には方形周溝墓に関連すると推定される土器集積遺構が展開している。

出土遺物は当該期の土器が主体となるが、谷地系からは未成品を含む多量の木製品も出土している。この他注目できる資料として、谷地形の上層から出土した奈良時代と考えられる木簡が1点ある。

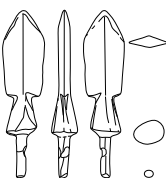
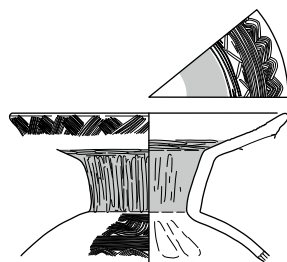
(池本正明)



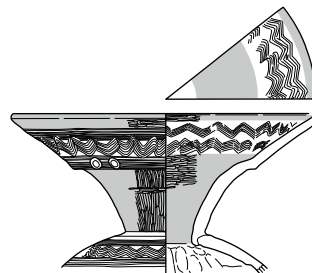
B区SU01(西から)



0 10 cm



出土遺物実測図



0 10 cm

報告書抄録

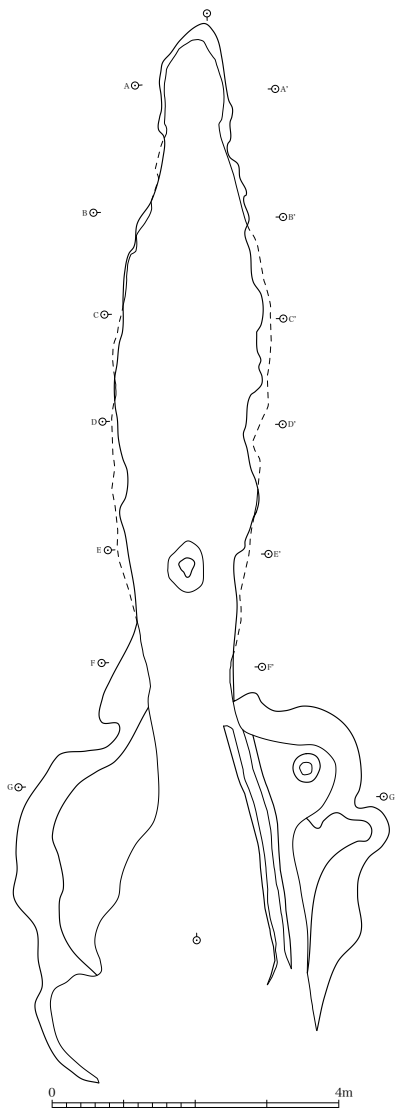
ふりがな	しもかけいせき							
書名	下懸遺跡							
副書名								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第144集							
編著者名	池本正明・赤塚次郎・樋上 昇・堀本真美子・鬼頭 剛・森 勇一・永草康次・植田弥生・神谷已佳・平尾義光・鈴木浩子							
編集機関	財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567-67-4161							
発行年月日	西暦2009年3月31日							
収蔵遺跡名	所在	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	原因
		市町村	遺跡番号					
しもかけいせき 下懸遺跡	あんじょうしおがわちやう 安城市小川町 しもかけ	23213	540127	34°	137°	200012	3700	鹿乗川改修
	54'			05'	～			
	21"			44"	200103			
文書番号	発掘届出（12埋セ125-1 12.8.31） 発掘許可（12教生216-25 12.9.29）							
	終了届（12埋セ 13.3.29） 発見届（12埋セ 13.3.29）							
	保管証（12埋セ 13.3.29） 認定（12教生216-25 13.5.28）							
収蔵遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
しもかけいせき 下懸遺跡	集落遺跡	弥生時代後期 ～ 古墳時代前期 奈良時代以降	竪穴建物・方形周溝墓	弥生土器・木製品 銅鏃・小型鉄製品 木簡・墨書土器				
要約	本遺跡は沖積低地中の微高地に位置する。検出された遺構は弥生時代後期後半から古墳時代初期が中心で、竪穴建物・溝・土坑などが検出される居住域と方形周溝墓群で構成される墓域が検出されている。その前面には谷地形が広がるが、未成品を多く含む木製品が出土しており、近接して木製品の製作に関わるエリアが存在したと考えられる。							

第151集 万徳峠窯跡・川合D窯跡

万徳峠窯跡および川合D窯跡は、庄内川支流である赤津川左岸の丘陵南斜面に位置する。標高は160～170mを測る。東海環状自動車道建設に付随する道路改良事業の工事に伴い、調査を実施した。

万徳峠窯跡の調査では13世紀後半から14世紀前半の時期の山茶碗・古瀬戸施釉陶器窯の窯体1基と付属の施設の遺構と考えられる土坑13基、粘度溜め遺構および灰原と二次体積層が堆積する自然河道の河谷が確認された。出土遺物は、尾張南部系第7～8型式の山茶碗、山皿および古瀬戸前期の四(三)耳壺、瓶子、水注などの施釉陶器瓶類が検出された。

川合D窯跡では遺物包含層のみが確認された。戦前から戦後にかけての農地開発、道路・送電線鉄塔建設などによる窯跡の削平、攪乱が著しい。検出された自然河道の小河谷内の灰原層と二次堆積層から、14世紀末～15世紀前半の無釉陶器類および前期と中・後期の古瀬戸施釉陶器が出土した。無釉陶器類は、尾張南部系第9型式の山茶碗、山皿、片口鉢などが検出された。古瀬戸施釉陶器は、前期は四(三)耳壺、瓶子、水注、中・後期は碗類、皿類、瓶類、鉢類などが検出された。古瀬戸前期の施釉陶器窯および中・後期の山茶碗窯と施釉陶器窯が調査区の斜面上方に存在したと推測されるが、窯体数、操業形態についての詳細は不明である。(酒井俊彦)



万徳峠窯跡窯体



万徳峠窯跡窯体全景



川合D窯跡

報告書抄録

ふりがな		まんとくとうげようせきかわいでいようせき						
書名		万徳峠窯跡 川合D窯跡						
副書名								
巻次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第151集						
編著者名		酒井俊彦						
編集機関		財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567 (67) 4161						
発行年月日		2009年3月31日						
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経		調査面積	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "	調査期間	m ²	調査原因
万徳峠窯跡	せとしかわいちょう 瀬戸市川合町	03	0230	35° 12' 00"	137° 07' 20"	20030817～ 20031130	1000	道路建設
川合D窯跡	せとしかわいちょう 瀬戸市川合町	03	0861	35° 12' 00"	137° 07' 14"	20031015～ 20031215	250	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
万徳峠窯跡	古窯跡	鎌倉時代		窯体 土坑 灰原		山茶碗 山皿 古瀬戸施釉陶器		
川合D窯跡	古窯跡	室町時代		灰原		山茶碗 山皿 古瀬戸施釉陶器		
文書番号	遺跡名	発掘届	発掘許可	調査終了届	遺物発見届	埋蔵文化財保 管証	埋蔵文化財認 定	
	万徳峠窯跡	15埋セ18 15. 5. 29	15教生72-6 15. 6. 24	15埋セ86 15. 12. 3	15埋セ86 15. 12. 3	15埋セ86 15. 12. 3	15教生1261 16. 1. 12	
	川合D窯跡	15埋セ18 15. 5. 29	15教生72-6 15. 6. 24	15埋セ87 15. 12. 3	15埋セ87 15. 12. 3	15埋セ87 15. 12. 3	15教生1262 16. 1. 12	
要約	万徳峠窯跡と川合D窯跡は瀬戸市東部の丘陵地帯に近接して所在する中世の窯跡である。万徳峠窯跡は鎌倉時代13世紀の無釉陶器の山茶碗と山皿を主体に焼成、少量の古瀬戸施釉陶器の四耳壺、瓶子、水注を併焼している。遺構としては窯体、土坑、灰原を確認している。川合D窯跡は、遺構は灰原と二次堆積層を検出している。窯体等の遺構は確認されてない。遺物は14世紀の山茶碗、山皿、古瀬戸施釉陶器類が出土した。							

第154集 朝日遺跡Ⅷ

朝日遺跡は弥生時代において県下最大規模の遺跡であり、現在の標高が2～4mで沖積低地に立地するが、遺跡本来は伊勢湾に面した砂堆上に位置していたものと推測できる。現在想定できる遺跡の範囲は、清須市を中心にして東西約1.4km以上、南北約0.8kmで、面積は100万平米を越える大規模集落遺跡である。集落域は北と南に区分される環濠集落を中心として、その周辺部に方形周溝墓群が大きく展開する巨大な墓域が存在する。多種多様な弥生時代の遺物が出土しており、当地域における弥生文化の中核的な遺跡であった事を、あらためて再評価する調査成果となった。(赤塚次郎)



朝日遺跡のイメージ図

報告書抄録

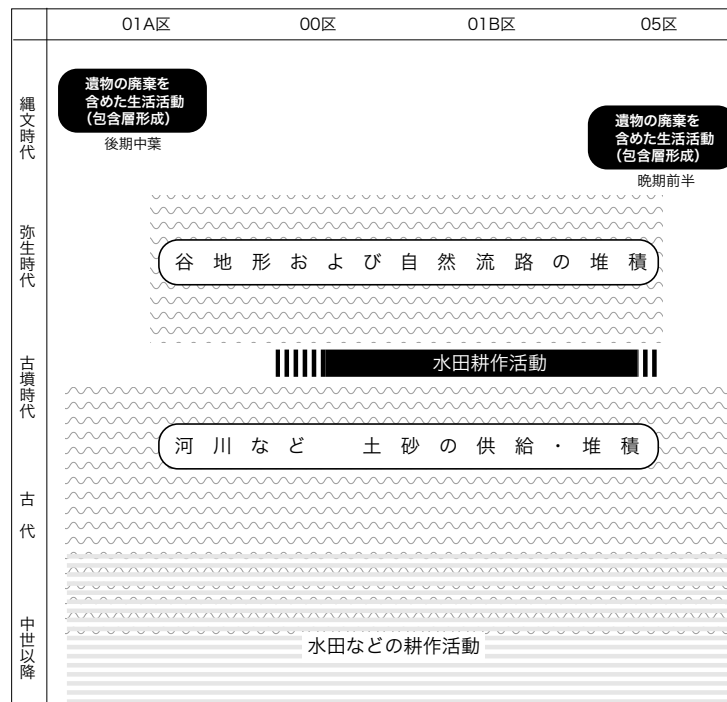
ふりがな		あさひいせき はち						
書 名		朝日遺跡 VIII						
副 書 名		本文編、写真図版編、総集編						
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第154集						
編著者名		永井宏幸，堀木真美子，赤塚次郎，早野浩二，石黒立人，川添和暁 樋上 昇，鬼頭 剛，樋泉岳二，中村賢太郎，孔智賢，奥野絵美 森 勇一，藤尾慎一郎，尾嵩大真						
編集機関		財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL.0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2009年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ・' "	東経 ・' "	調査期間	調査面積	調査原因
あさひ いせき 朝日遺跡	きよすし 清須市 なごや し にしく 名古屋市区 にしかずかいぐん はるひちよう 西春日井郡春日町	21	210001	35度 13分 16秒	136度 51分 16秒	2004年10月 ～ 2007年8月	5607㎡	近畿自動車道名古屋関線清洲 JCT, 名岐道路, 県道高速清洲 一宮線及び県道高速名古屋朝 日線建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
朝日遺跡	集落	弥生時代 ～ 古墳時代	環濠、竪穴建物 掘立柱建物 方形周溝墓溝 溝、土坑 貝塚・旧河道など		弥生土器、土師器、 石器、木器 ガラス小玉 骨角器 動物遺体など		弥生時代の 環濠集落とその墓域 弥生中期の貝塚 方形周溝墓と その埋葬主体部 弥生後期の 祭祀遺構 鹿が描かれた筒形土器・舌状石製品	
文書番号		発掘届 (16埋セ第51号/平16-09-13・17埋セ第38号/平17-08-10 17埋セ第125号/平18-03-22・18埋セ第108号/平19-03-29) 発掘許可 (16教生第1182号/平16-09-29・17教生第1104号/平17-08-31 18教生第45号/平18-04-12・19教生第19号/平19-04-05) 発見届 (16埋セ第124号/平17-03-31・17埋セ第125号/平18-03-22 18埋セ第109号/平19-03-20・19埋セ第55号/平19-08-30) 終了届 (16埋セ第124号/平17-03-31・17埋セ第125号/平18-03-22 18埋セ第109号/平19-03-20・19埋セ第55号/平19-08-30) 鑑査結果 (17教生第364号/平17-05-23・18教生第466号/平18-06-14 19教生第469号/平19-05-23・19教生第1686号/平19-10-22)						
要約	今回の朝日遺跡の調査では、弥生後期の環濠である北区画内南側に広場的な空間があり、祭祀関係の遺構が存在する点が明らかとなった。また遺跡北東部の北墓域では、弥生時代中期を中心とした方形周溝墓群が展開し、その下層において中期前葉の居住域が広く営まれていた。遺跡南端部では南墓域が存在し、中期後葉を中心とした造営地であることが明らかとなった。さらに洪水性の砂層堆積が旧河道を中心に存在し、中期後葉の高蔵式期末葉段階に位置づけられる。朝日遺跡全体の集落景観とその変遷を考える上で、大変重要な資料を得ることができた。							

第157集 大坪西遺跡

大坪西遺跡は、国道248号線の建設に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として行なわれたものである。調査は平成12年に1調査区(00区)・13年に2調査区(01A・01B)・17年度に1調査区(05区)の4調査区を設定し、三カ年にわたって、計1,150㎡を調査した。整理は、平成20年1月から3月までの期間で、出土遺物の分類・接合・復元・実測などの整理作業を行い、報告書作成作業を進めていった。

調査では、縄文時代の土器集積および竪穴状遺構などの遺構・古墳時代の水田跡・縄文時代から近世までの遺物が出土していたことは把握されていた。最も数量が多いのは縄文時代の遺物であるが、整理の結果、縄文時代の遺物が出土している01A区と05区では時期が異なり、01A区では縄文時代後期中葉、05区では縄文時代晩期前半であることが明らかとなった。このことを調査成果と照らし合わせると、両者は、時期のみならず、包含層の土性・石器を含めた出土遺物の内容などに大きな差が存在しているようであり、立地・形成状況にも違いがあったことが考えられた。後期中葉の土器集積が検出された01A区は、大坪遺跡に近接しており、大坪遺跡の一部としての廃棄活動が行われた可能性が考えられる。05区は、遺物が散発的に存在する状況で、1キロ以上離れた地点に立地する大六遺跡と関連して当時の人間活動を考える上で貴重な事例となった。

大坪西遺跡報告書は総頁110、本文70頁、写真図版24プレートである。添付CDには、報告書PDF書類と、遺構一覧表・遺物一覧表・過去の年報原稿データ（PDF書類）がある。（川添和暁）



大坪西遺跡の変遷

報告書抄録

ふりがな	おおつばにしいせき
書名	大坪西遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第157集
編著者名	川添和暁・堀木真美子・馬場健司・小林紘一・丹生越子・伊藤茂・廣田正史・瀬谷薫 Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani
編集機関	財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24
発行年月日	西暦2009年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおつばにしいせき 大坪西遺跡	せとしおおつばちょう 瀬戸市大坪町	03	030915	35 度 11 分 40 秒	137 度 6 分 14 秒	200010～ 200511	1,150㎡	国道248号線 の建設に伴う 事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大坪西遺跡	集落・水田遺跡	縄文後期中葉	遺物包含層	縄文土器・石器・石棒	
		縄文晩期前半	遺物包含層・竪穴状遺構・土坑など	縄文土器・石器	
		古墳	水田跡など	土器片・陶器片など	

文書番号 発掘届出(12埋セ第163-1号／ 13埋セ第83号・13.9.4／ 17埋セ第60号・17.10.3)
 通知(12教生第216-38号・12.12.7／ 13教生第36-15号・13.9.17／ 17教生第1348号・17.10.20)
 終了届(13埋セ130号・13.11.14／ 17埋セ第92号・17.12.19)
 保管証・発見届(13埋セ130号・13.11.14／ 17埋セ第92号・17.12.19)
 鑑査結果通知(12教生第216-38号・13.5.28／ 13教生第36-15号・13.12.11／ 17教生第2024号・18.1.26)

要約 01A区では縄文時代後期中葉の遺物包含層、05区では縄文時代晩期前半の遺物包含層、01B区と00区では古墳時代の水田跡が検出された。01A区は大坪遺跡の縁辺部に位置し、集落端に廃棄した地点である可能性が考えられる。05区は晩期前半期の単的遺跡と考えられ、同時期の遺跡として、大六遺跡を形成した人間集団との関係が考えられるものである。

第158集 惣作遺跡

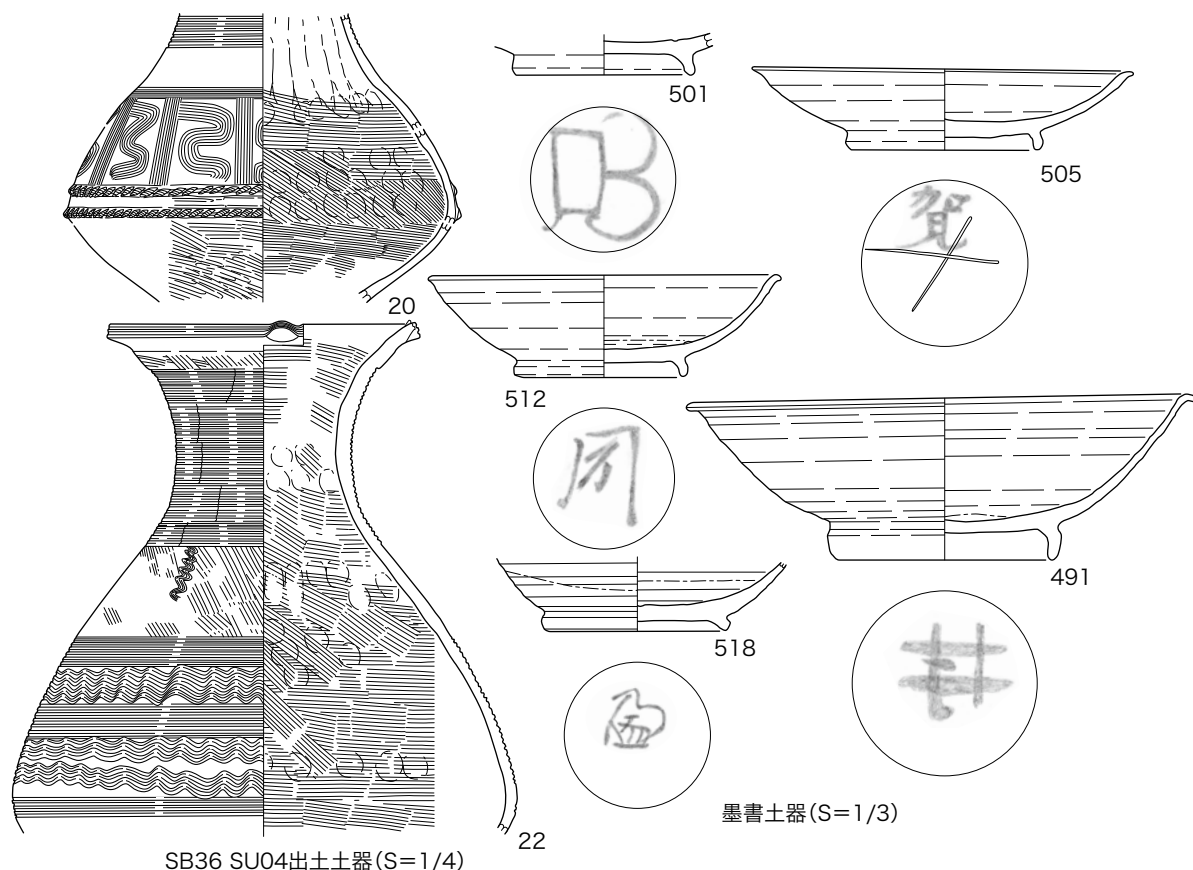
惣作遺跡の調査は、中小河川改良工事（鹿乗川）に伴う事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じた委託事業として本センターが行ったものである。調査期間は平成16年10月から平成17年3月にかけて、調査面積は3295㎡である。遺跡は、碧海台地の縁辺に沿って流れる鹿乗川左岸の微高地上に立地する。遺構検出面の標高は6～7mを測り、碧海台地とは3～4mの比高がある。現在鹿乗川は直線的に改良されているが、それ以前は矢作川の浸食や堆積などの影響で、かなり入り組んだ地形であったことが、発掘調査などから判っている。

遺構・遺物の主な時期は、A期 弥生時代から古墳時代初頭（A—1期 弥生時代前期後半～中期前葉 水神平式期？～岩滑式期・朝日式期、A—2期 弥生時代中期後半 古井式期～凹線文期、A—3期 弥生時代後期～古墳時代初頭 山中式期～廻間式期）、B期 平安時代前半（B—1期 井ヶ谷78号窯式期～黒笹90号窯式期、B—2期 折戸53号窯式期）、C期 戦国時代から江戸時代（C—1期 鎌倉時代、C—2期 戦国時代～江戸時代、C—3期 江戸時代後期以降）に分かれる。

A期では、A-1期の焼成失敗品が廃棄された竪穴建物を含む居住域、A-2期前半の遺物を多く含む河道、A-2期後半の居住域と墓域、A-3期では惣作遺跡としては最大規模になると推定される居住域が検出された。

B期は掘立柱建物の方位や土坑との切り合いによって、2時期に分かれると思われ、近接する寺領廃寺との関連が考えられる瓦や、墨書土器も42点出土している。また銅綵や銅バリ・銅滴・炉壁などの铸造関連遺物も出土し注目された。

C期以降には集落は形成されず、水田に利用されるような河道の影響を受ける不安定地形であったと想定された。(宮腰健司)



報告書抄録

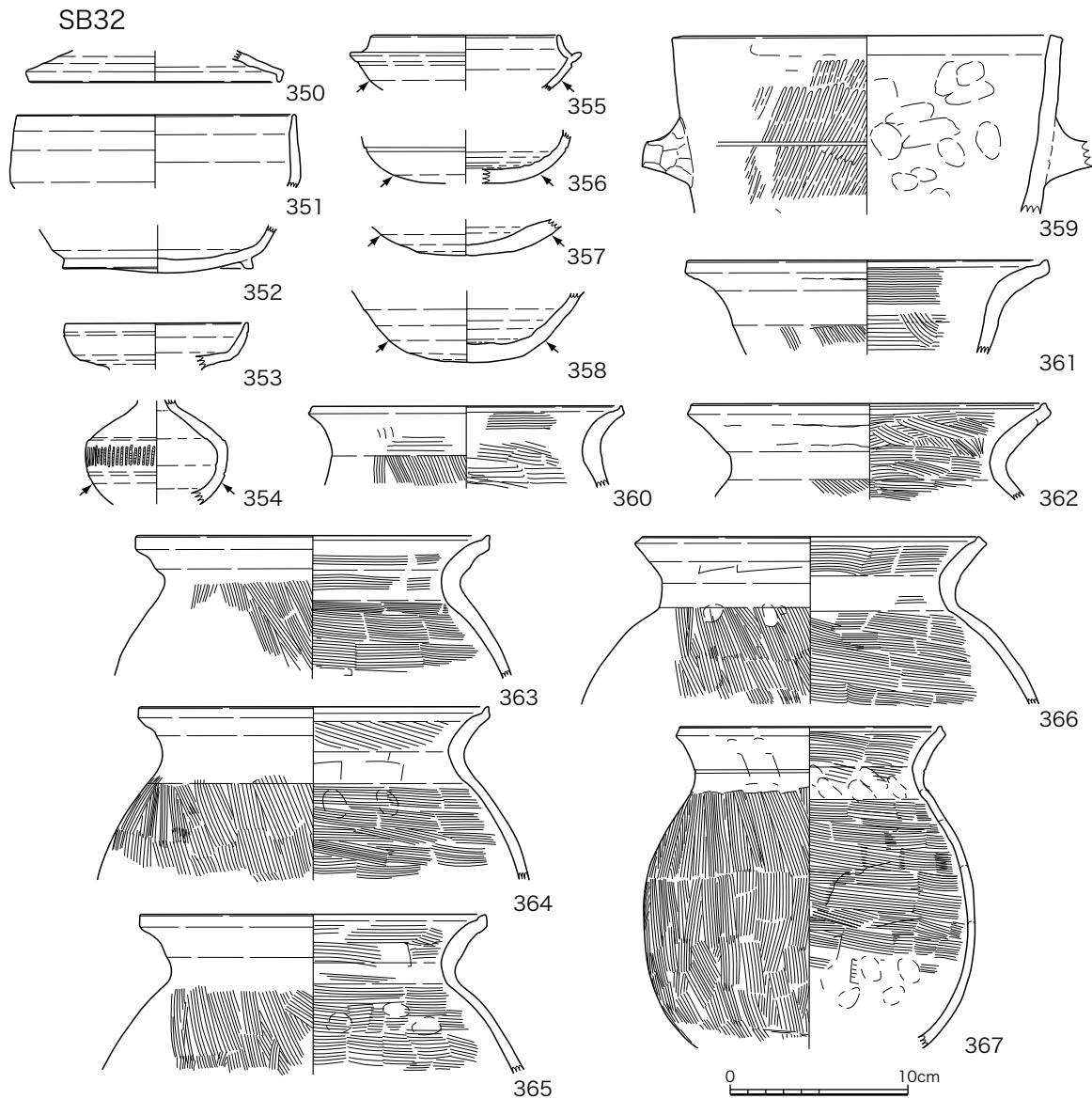
ふりがな	そうさく							
書名	惣作遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第158集							
編著者名	宮腰健司・鈴木正貴・鬼頭剛・株式会社パレオ・ラボ(伊藤茂・丹生越子・廣田正史・瀬谷薫 小林紘一・Zaur Lomtadize・Ineza Jorjoliani・中村賢太郎・Bhandari Sudarshan・孔智賢)							
編集機関	財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町字野方802-24							
発行年	西暦2009年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
そうさく 惣作	あんじょうし きどちょうそうさく 安城市木戸町惣作	23213	540132	34°53'60"	137°05'38"	2004年 10月 2005年 3月	3295㎡	鹿乗川河川改良工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
惣作遺跡	集落 墓 水田	弥生時代 古墳時代 平安時代 江戸時代	竪穴建物 土壇 溝 方形周溝墓? 土器棺 河川 水田		土器 土製品 須恵器・灰釉陶器 土師器 銅滓・銅滴 木器 石器 瓦		焼成剥離土器片 墨書土器42点 平安時代の木簡1点	
文書番号	発掘届出(16埋セ第47号・2004.8.31) 通知(16教生第1127号・2004.9.16) 終了届・保管証・発見届(16埋セ第112号・2005.3.4) 監査結果通知(16教生第2144号・2005.3.29)							
要約	本遺跡は鹿乗川左岸の標高約7mを測る、自然堤防に立地する。弥生時代前期末～中期前葉、中期後葉～古墳時代初頭の竪穴建物群が確認され、中期後葉には方形周溝墓?や土器棺もみられる。また焼成失敗品を出土する竪穴建物も検出されている。 平安時代(9世紀後半～10世紀前半)にも掘立柱建物が確認され、墨書土器や木簡、折敷底や竪杵などの木製品、瓦、銅滓や銅滴などの鑄造関連遺物などが出土している。 戦国時代から江戸時代にかけては、土坑・溝・水田が検出されている。							

第159集 下津新町遺跡

下津新町遺跡は、稲沢市下津新町地内に位置する。発掘調査は、主要地方道路名古屋豊山稲沢線の道路改良工事に伴い、平成17年4月から11月まで実施された。整理および報告書作成作業は平成19年度に行い、本年度に報告書刊行までの作業を行った。

発掘調査の結果、古墳時代から江戸時代までの長期間にわたる遺構や遺物が確認された。報告書作成に際しては、これらの遺構や遺物を段階別に整理し、遺構変遷を詳細に把握することを主眼にして作業を実施した。この結果、全部で18段階の遺構変遷を推定することができ、特に、古代の竪穴建物と掘立柱建物で構成される集落の動態を分析したことは重要な成果となるであろう。また、中世では5段階に遺構変遷が理解され、守護所下津の景観復元に際して情報を提供できたのではないかと考えている。

(鈴木正貴)



下津新町遺跡古代出土遺物(1:4)

報告書抄録

ふりがな		おりづしんまちいせき						
書 名		下津新町遺跡						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第159集						
編著者名		鈴木正貴、宮腰健司、加藤博紀、鬼頭剛、藤根久、中村賢太郎						
編集機関		財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2009年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
おりづしんまちいせき 下津新町遺跡	いなざわし おりづしんまち 稲沢市下津新町	23220	090270	35度 15分 27秒	136度 49分 34秒	20050418～ 20050916、 20051006～ 20051111	2278㎡	道路改良 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
下津新町遺跡	集落	古墳時代 前期	落ち込み、土坑 など	土師器			古墳時代後期から 古代の集落	
	城郭	古墳時代 後期～ 平安時代	竪穴建物跡、 掘立柱建物跡、 溝、土坑など	須恵器、土師器 灰釉陶器など				
		鎌倉時代 ～ 室町時代	掘立柱建物跡、 柵列、溝、井戸、 火葬施設、土坑 など	山茶碗類、 瀬戸美濃窯産陶器、 石器・石製品、 木製品、木材、 金属製品および その関連遺物など			下津城周辺の遺 構群を検出	
		江戸時代	溝、井戸、土坑 など				岐阜街道沿いの 集落	
文書番号		発掘届出(16埋セ第115号・2005.3.8、17埋セ第48号・2005.9.1) 通知(16教生第2253号・2005.3.31、17教生第1239号・2005.9.29) 終了届・保管証・発見届(17埋セ第56号・2005.9.26、17埋セ第77号・2005.11.15)						
要約	今回の調査で確認された遺構や遺物は4期に大別される。古墳時代前期では谷に向かう斜面に遺構や遺物が検出された。古墳時代後期から平安時代では竪穴建物と掘立柱建物を中心とした一般的な集落が確認された。鎌倉時代から平安時代では5段階に遺構変遷が把握され、宗教施設・屋敷・町場的な小区画の屋敷などが展開したと想定された。これらの遺構群は守護所下津との関連が注目されよう。戦国時代から江戸時代前半までは集落は途絶えるが、江戸時代後期では岐阜街道に面した屋敷が確認され、これが現在の下津新町につながるものと推定された。調査は当初「鎌倉街道周辺遺跡」として開始されたが、今回の調査区は推定鎌倉街道が通る自然堤防とは異なる河川による自然堤防上に立地しており、遺跡の内容も考慮した結果、「下津新町遺跡」という別遺跡として評価すべきと判断された。							

第160集 西松山峠窯跡

西松山峠窯跡は瀬戸市の中央部やや西よりの水野川と瀬戸川にはさまれた水野丘陵に位置し、標高約 125 m の丘陵東向き斜面に立地する。遺跡の周辺には水南小前窯跡や水南中窯跡などの 13 世紀の窯跡が集中する。発掘調査は国道 155 号改良工事にともなう事前調査として 750 m² を平成 18 年 6 月から 8 月にかけて実施した。

調査の結果、調査区は中世以降の土砂の流入や近現代の平場造成により地形が大きく改変されていることがわかり、窯業生産にともなう遺構としては灰原の一部と考えられる焼台集積遺構（SX001・002）を調査区北西部で検出したにすぎない。灰原の位置から窯体は調査区外に所在すると思われるが、地表面の観察では存否は確認できない。

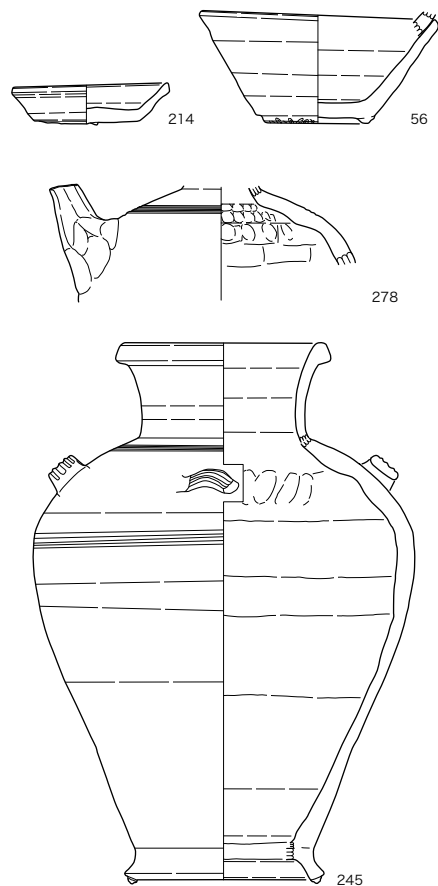
出土遺物の総数は底部 1 / 2 以上残存数で 1122 点を数えるが、その内の約 93% は第 7 型式の尾張型山茶碗である。特筆すべきは、出土数は少ないものの四耳壺・瓶子・水注・卸皿など前Ⅲ～Ⅳ期の古瀬戸が出土したことであり、青灰色と赤褐色の 2 色の焼台が出土したことから、古瀬戸も焼成していたことが明確となった。この時期の古瀬戸生産の中心である瀬戸区と水野区との関係を考える上で重要な資料を一つ加えることとなった。（宇佐見守）



調査区中央



SX001



出土遺物

報告書抄録

ふりがな	にしまつやまとうげかまあと
書名	西松山峠窯跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第 160 集
編著者名	宇佐見守・野村敏江・小林紘一・丹生越子・伊藤茂・廣田正史・瀬谷薫・Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani・藤根久・中村賢太郎
編集機関	財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒 498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦 2009 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にしまつやまとうげかまあと 西松山峠窯跡	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 きたまつやまちょう 北松山町	23204	030183	35° 14' 13"	137° 4' 47"	20060620 ～ 20060803	750	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西松山峠窯跡	古窯跡	鎌倉	灰原・土坑	山茶碗・古瀬戸	古瀬戸の出土

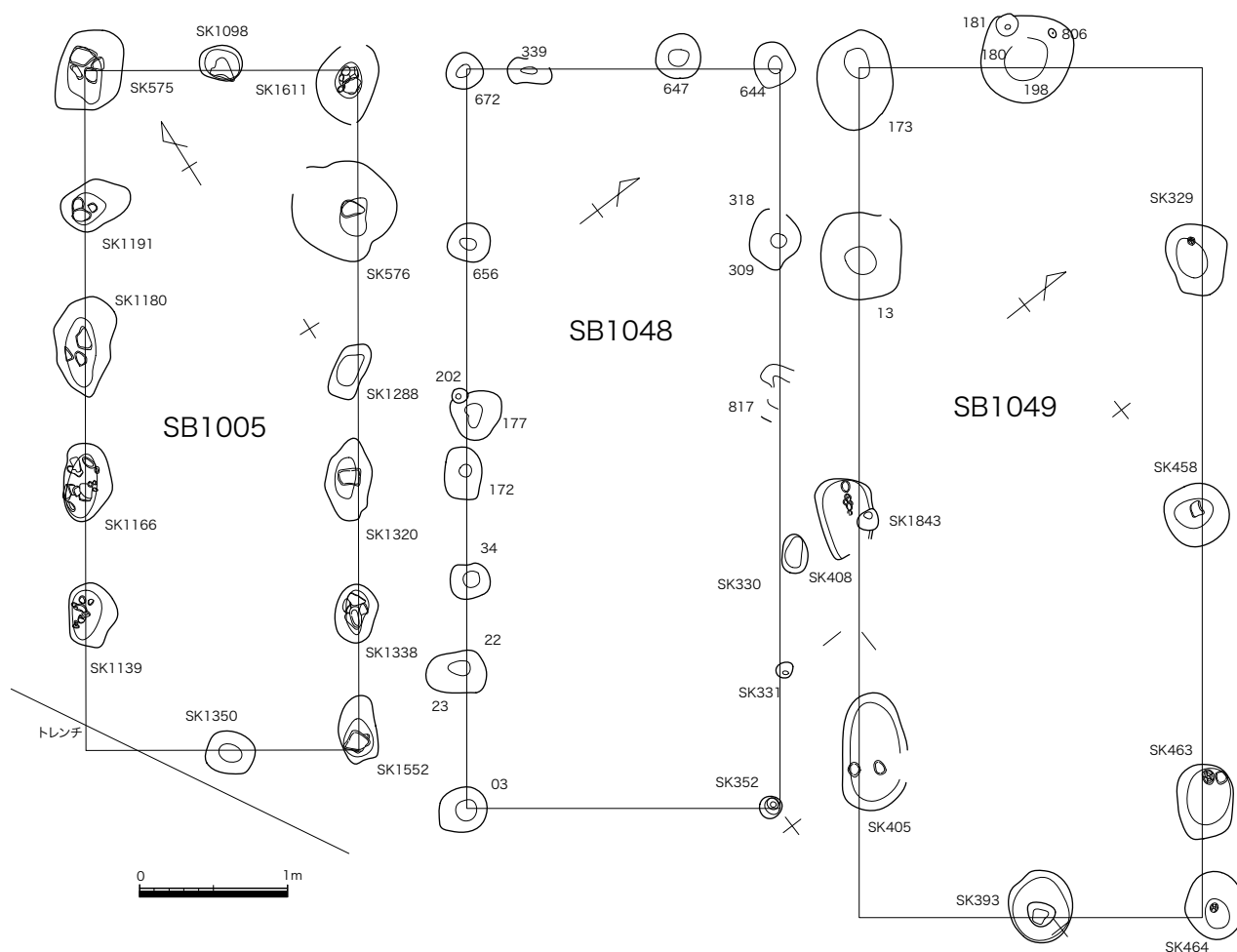
文書番号	発掘届出（18 埋セ第 7 号・18.5.16） 通知（18 教生第 426 号・18.5.30） 終了届・保管証・発見届（18 埋セ第 39 号・18.8.22） 鑑査結果通知（18 教生第 1306 号・18.9.25）
------	---

要約	調査区は中世以降の土砂流入や近現代の平場造成により地形が大きく改変されており、良好な遺構としては、北西部で灰原の一部である焼台集積遺構を検出したのみである。出土遺物としては、第 7 型式の尾張型山茶碗と前Ⅲ～Ⅳ期の古瀬戸が出土し、従来山茶碗専焼窯と考えられていたが本窯が、鎌倉時代（13 世紀後半）の古瀬戸焼成窯（山茶碗併焼窯）であることがわかった。
----	---

第162集 今町遺跡Ⅱ

今町遺跡は、豊田市今町地内に位置する。発掘調査は、第二東海自動車道建設工事に伴い、平成18年4月から6月まで実施された。整理および報告書作成作業は平成19年度に行い、本年度に報告書刊行までの作業を行った。

発掘調査の結果、戦国時代から江戸時代までの遺構や遺物が確認された。遺構は区画溝・井戸などの他に約1700基の柱穴などが検出されていた。報告書作成に際しては、柱穴群から掘立柱建物跡を可能な限り復元することを主眼に置いた。結果、94棟の掘立柱建物跡を想定し、これらの中で細長い長方形の大型掘立柱建物跡が多数存在することを明らかにした。これらの遺構は住居ばかりでなく倉庫などの機能が想定され、今町遺跡が蔵屋敷的な集落景観を持っていたのではないかと想定された。(鈴木正貴)



今町遺跡主要遺構実測図

報告書抄録

ふりがな		いまちよういせき に						
書 名		今町遺跡 II						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第162集						
編著者名		鈴木正貴、鬼頭剛、藤根久、中村賢太郎						
編集機関		財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2009年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
いまちよういせき 今町遺跡	とよたし いまちよう 豊田市今町	23211	630476	35度 2分 19秒	137度 10分 14秒	20060427 ～ 20060627	2000㎡	第二東海 自動車道 建設
所収遺跡名	種別	主な時代 主な遺構			主な遺物		特記事項	
今町遺跡	集落	室町時代 掘立柱建物跡94棟、 ～ 柵列、溝、井戸15基、 江戸時代 石敷遺構、土坑 など			土師器(皿、鍋)、 瀬戸美濃窯産陶器、 石器・石製品、 木製品など		倉庫群を伴う 集落 木簡	
文書番号	発掘届出(17埋セ第126号・2006.3.22) 通知(18教生第43号・2006.4.12) 終了届・保管証・発見届(18埋セ第24号・2006.7.3)							
要約	今回の調査では戦国時代から江戸時代の遺構や遺物が確認された。これらは7段階に細別され、各段階で屋敷などの区画が設けられていたことが判明した。溝で囲まれた屋敷内には掘立柱建物跡・井戸・水溜状遺構などが配置されており、17世紀から18世紀後半で最盛期を迎えている。特に、掘立柱建物跡には細長い長方形プランのものが多く存在しており、倉庫群を形成していたと考えられる。このような遺構構成からみて、今町遺跡は蔵屋敷のような性格が想定される。遺跡は加茂郡の南端に所在し、矢作川岸に近接する場所にあつて、付近に川湊が存在した可能性も考えられる。水運を中心とした流通の拠点を形成する屋敷の一部を確認したものと評価されよう。							

